

特別寄稿

口腔保健に世界が注目

WHO決議の意義・開業医の役割を考える

相田潤・東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 健康推進歯学分野 教授

世界保健機関（WHO）第74回世界保健総会の口腔保健決議（2021年）を受け、加盟各国に口腔保健推進の取り組みを促す「世界口腔保健戦略」が22年5月に承認された。決議の共同提案国である日本にとっての決議の意義とは――。日本の口腔保健の現状と課題、開業医の役割について、相田潤氏（東京医科歯科大学教授）に解説してもらった。



あいだ・じゅん

歯科医師。日本口腔衛生学会フッ化物応用委員会委員長、東北大学特任教授などを務める。口腔の健康格差の研究、口腔の健康と全身の健康の研究、東日本大震災と健康の社会的決定要因の研究などに従事する。

似ている。8020達成率は増えているが、高齢者の人口も増えているため、補綴治療のニーズの高い19歳以下の高齢者は減少していない。歯科保健医療のニーズは極めて高いのである。

日本では、口腔の形態の疾患は減少していくという前提で、口腔機能を重視する流れがある。しかし、歯科診療の実態としては、う蝕や歯周病、補綴治療は多いのではないだろうか？これらを一切無くして、口腔機能の治療や指導だけで歯科医院が成り立つだろうか、そして患者さんのニーズは解消されるだろうか？WHOの決議は、これまでの歯科診療の仕事の重要性を新しい角度から提起し直している。日々の患者さんが抱える口腔の困りごとが、個人に加えて社会全体にとって大きな負担であることを示している。

健康寿命喪失の一因

そして口腔と全身の関連の重要性も決議の中では言われているが、全身の健康を守る口腔の健康のために、喪失歯をおきなく補綴治療や、そもそも歯を喪失させないう蝕や歯周病予防の重要性が決議の根底には存在している。う蝕や歯周病や歯の喪失は、それが直接命に関わることは少ない。しかし人々に痛みや不快感を与え、QOLの低下を招く。そしてこれらの有病率の高さは、社会全体に大きな損失を生み出している。がんや脳卒中は、個人への影響は大きいですが、う蝕や歯周病、歯の喪失のように有病率が高いわけではない。病気の個人への影響と、有病率という社会への影響の双方を考えた研究では、口腔疾患が高齢者の健康寿命喪失の10大原因の1つに入っている（JAMA, 2022）。

平等性高い施策を

こうした重要性とは別に、WHO決議においては口腔疾患の健康格差も重視されている。日本でも子どもから高齢者まで口腔疾患の健康格差が存在する。ユニバーサルヘルスカバレッジの点からは、日本は保険診療が充実しているため、国際的に極めて安価に歯科治療が受けられる良い状況にある。しかしそれでも、高所得者ほど定期歯科受診をしていたり、3割負担が2割負担になる高齢者で歯科医療受診が増加するなど、経済状況で受診が左右されている。またコロナ禍では子どもの貧困の問題として「米などの主食を買えないことがある」というひとり親世帯が多く存在し、子どもの体重減少が報告されている。こうした状況は、子どもの歯科受診だけでなく、歯ブラシやフッ化物配合歯磨剤の購入も難しい状況があるだろう。だれもが歯科医療を受けられるという観点からは、医療費補助の充実や、学校でのフッ化物洗口といった平等性の高い施策が求められる。

日本ではWHOの決議はそれほど周知されていないように思われるが、このように多くの日常的な臨床歯科医療の重要性および、保険診療の重要性をアピールするものである。この決議の重要性が日本でも広く知れ渡り、それにより一層口腔保健医療施策が充実することを期待したい。

大阪大学大学院歯学研究科
歯科放射線学教室
教授 村上 秀明
同 大学院生
KITTSIWORAPAN
Wiranut

MRIは全身に広い適用があり、年々普及が拡大しています。口腔領域にも適応は広く、腫瘍や顎関節症の診断に使われています。

周囲の画像が歪む

MRIは磁気共鳴画像のことで、強い磁場と電波を使って、核磁気共鳴現象を用いて撮像しています。歪みのない高精度な画像を得るためには、1.5テスラや3.0テスラほどの強い均一な静磁場と、正確な電波の照射が必要です。ちなみに、1テスラと10,000ガウスのことで、地磁気はせいぜい0.5ガウス程度です。

このMRIの特長は、電離放射線被曝を伴わず断面画像が得られ、軟部組織間コントラストが高いことです。他にも多くの利点がありますが、磁場が均一でないという歪みは歪んでしまうのが欠点です。口腔にはさまざまな金属が存在します。この金属が原因で画像が歪むのです。金

MRI検査における歯科用金属の影響

歯学研究が開く 歯科の未来

属はもちろんのこと、どんなものでも強い静磁場のなかでは磁化されます。すなわち、どんなものでも小さい磁石になります。鉄、ニッケル、コバルトは強い磁石になります。水でも弱い磁石になります。強磁性体でありませんが、チタンもある程度は磁化されますので、インプラント体が埋入されている周囲のMRI画像は歪みます。これをアーチファクトと呼んでいます。

撮像方法明らかに

私たちの研究室では、このアーチファクトを中心として、歯科用金属によるMRIの悪影響について研究しています。まず、そのメカニズムを明らかにし、次に、その対処方法について試行しています。MRIにはさまざまな撮像方法がありますが、このなかでいくつかアーチファクトが小さくなる撮像方法を明らかにしました。

また、歯科用金属のなかにはMRIスキャンに強く引っ張られるものがあります。MRIスキャンの近くで、マグネットデンチャーのキーパーが外れた報告もあります。引っ張られるだけでなく、スキャンの中央では、金属の長軸がスキャンの長軸に平行になるうとしてトルクがかかります。また、MRIスキャンによって、ステンレスチールワイヤーが磁化したり、逆にマグネットデンチャーの吸着力が弱くなったという報告もありませんが、まだまだ分からないことだらけです。

次年度には1.5テスラの装置に代わり、3.0テスラの装置が導入される予定です。より高い静磁場強度ではさまざまな影響が大きく出現することが予想されますが、これらについても明らかにしていきたいと思えます。

う蝕未処置4000万人

口腔保健の重要性が見直された理由としては、歯科疾患の有病率が他の疾患よりも高い傾向にあることが

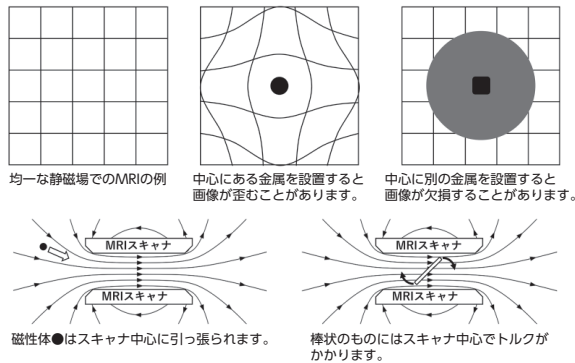
高い歯科保健医療ニーズ

近年、口腔保健の重要性が世界的に見直されている。2019年には医学誌Lancetにおいて196年の歴史の中で初めてとなる口腔保健の特集号が出版され、2021年には世界保健機関（WHO）の第74回世界保健総会において、口腔保健に関する歴史的な決議が承認された。これを受け日本では、口腔衛生学会から「第74回WHO総会議決書を踏まえた学会声明」が出されている。

この決議では、他の重要な非感染性疾患（NCDs、がん・糖尿病・循環器疾患・呼吸器疾患・精神疾患）と同様に口腔疾患の対策を行い、また口腔疾患には健康格差も大きい中、誰もが支払い可能な費用で歯科保健医療を受けられるユニバーサルヘルスカバレッジを実現し、口腔保健を向上させていくことが目指されている。

残念ながら、日本の歯科界では、う蝕の減少や、8020達成率の増加ばかりが周知され、それらが「改善している」という疾患と比べると多い」という状況は注目されていない。子どもの国全体の医療費で歯科疾患は呼吸器疾患に次いで2番目に多く、また高齢者では「歯が残ったことで」う蝕や歯周病を有する人は増加している（これは、寿命が伸びたことで認知症患者が増えたことに

MRI検査における歯科用金属の影響



均一な静磁場でのMRIの例
中心にある金属を設置すると画像が歪むことがあります。
中心に別の金属を設置すると画像が欠損することがあります。
MRIスキャナ
MRIスキャナ
MRIスキャナ
MRIスキャナ
磁性体はスキャナ中心に引っ張られます。
棒状のものにはスキャナ中心でトルクがかかります。